

1. 新人スタッフの紹介
2. 活動報告：7月23日～25日秋田市への災害ボランティア
3. 元寮生・訓練生は今・・・
4. 寮生・訓練生の状況／今月の1枚

2023年8月20日発行 発行者：遊遊館便り編集部
住所 〒197-0011 東京都福生市福生2351-1
電話 042-553-2575



新人スタッフを紹介します。

今回の秋田の災害ボランティアにも若者と一緒に参加した荒井と申します。コロナ禍のあおりを受け、転職することとなった50歳直前。『ニートやひきこもりの就労支援・・・』という文言が気になり応募した今年4月末。それまで20年以上、不動産売買の営業、旅行関連や飲食業など、売り上げや利益を上げることが目的であり、それが評価となり収入に繋がる仕事ばかり。一緒に働く仲間は、イケイケでいわゆる陽キャと呼ばれる人達が多く、根性論を地で行くような人たちに囲まれて生きてきました。そんな自分が採用されたのはきっと何かの導き？縁だとポジティブに捉え、これまでの仕事経験を生かして、気持ち新たに寮生たちと一緒に活動していこうと思います。よろしくお願ひします。



7月23日から2泊3日で、秋田市に災害ボランティアへ行ってきました

YSCでは伝統的に災害が起きた際に、若者達と共にボランティアに駆けつけています。

専門技術のない我々にできることは、水没した家具や畳の搬出等の力仕事や被災された方の話の傾聴くらいですが、(不謹慎ながら)自分が取った行動が目に見えて人の役に立っている、また直接感謝の言葉を受けるといった経験は参加した若者にとっては自己有用感に繋がる意義深い活動となっています。

近年だけでも2011年の東日本大震災では当然のように頻繁に東北各地へ、2017年九州北部豪雨はフェリーで福岡へ、2018年西日本豪雨では現地岡山の支援機関と連携してボランティア活動をしてきましたが、コロナ禍により被災地以外からのボランティアの受け入れが休止され、この数年間は災害が起きてもボランティアに行けないもどかしい状況が続きました。

コロナの5類移行に伴い、県外からのボランティア受け入れを再開しているのに気付いたのが7月20日。当然のことながらスタッフ間で行くか行かないかの議論などはなく、現地との連絡調整、有志の募集、高速道路通行証明書の取得、装備品の購入、車両や宿泊先の手配などを手早く済ませ、7月23日の朝、いつもは遅刻がちな若者たちも全員時間前に集合したため、出発予定時間を前倒して被災地秋田県へ出発。

YSCのボランティア魂、見事に復活!

(事務局長 菅野)



※参加者の感想や旅の様子は次のページ